

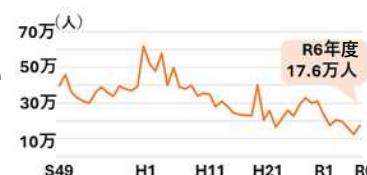


## 来園者数・収支状況

ピーク時(昭和63(1988)年)の来園者数は60万人を超えていましたが、**近年は10～20万人程度で推移しています。春(3～5月)及び秋(9～11月)に来園者数が増加する傾向**にあります。

園内に社寺などの民有地や5箇所の出入り口があり、**動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯**があります。過去5年間(令和2(2020)年度～令和6(2024)年度)の平均収入額は一時使用料などにより約16万4千円であり、また、支出額は人件費、飼料、維持・修繕などにより約1億9千5百万円となっています。

### ■来園者数の推移



## 「いのちを感じる」夢見ヶ崎動物公園

平成30(2018)年 夢見ヶ崎動物公園基本計画  
**「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」**

令和4(2022)年  
夢見ヶ崎動物公園再整備の基本的な考え方

令和5(2023)年～令和6(2024)年  
夢見ヶ崎動物公園再整備骨子 **「いのちを守る」「いのちの体感」「いのちへの共感」**

### 基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

### 基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

### 基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

## 夢見ヶ崎動物公園の課題

公園施設の老朽化に加え周辺環境の変化や社会変容による市民ニーズの変化、気候変動への対応が必要となっています。

### ●社会変容による市民ニーズ等の変化

新型コロナウイルス感染症による影響、オープンスペースの多様な利活用ニーズの高まり、アニマルウェルフェア※に対する意識の高まりなど



先行整備をした  
パークセンター

動物舎の老朽化

### ●施設の老朽化や不足による課題 (部分的に先行整備を実施)

園内のバリアフリー化の不足／動物展示の魅力低下／アニマルウェルフェアに配慮した飼育環境の整備が不十分／駐輪場や駐車場の検討不足など

### ●サービス面の課題

「教育・環境教育」「レクリエーション」に関する公益的なサービスの不足／地域との協働のポテンシャルを活かしたイベントやプログラムの不足／加瀬山の様々な文化財の保存、活用と魅力発信事業の不足

### ●持続可能な管理運営体制の構築に向けた課題

コレクションプラン等の充実が必要／飼育のノウハウの継承が不十分／持続可能な管理運営のための財源確保の課題など

※アニマルウェルフェア：飼育および展示における個々の動物の身体的および心理的状態のこと。

## 再整備の基本的な考え方

夢見は目指すべき将来像「わくわく ふれあい みんなでつくる動物公園」を踏まえ、**市民と利用者が「いのちを感じる」場となるよう再整備を実施**します。



- ・地球環境を大切にする行動へつながる
- ・自然や環境を自分ごととして考えるきっかけ
- ・自分や他者を大切にする気持ちを育てる

加瀬山に存在する自然・歴史・動物の多彩ないのちを加瀬山全体として体感できる**施設整備と運営管理を実現**

**再整備により “都市が自然と共生する姿勢を示す場、共有する場” としての動物公園を創造します。**

### 加瀬山が持つ、ここにしかない「いのちを感じる」資源のエリアごとの整理

#### 基本方針① 里山樹林エリア



- ・土地の記憶から**自然の営みを実感**
- ・樹林に暮らす**動物・鳥類・昆虫**
- ・**生きものとの共存を考える機会**
- ・身近な**鳥獣保護区**が住民の誇りにつながる

#### 基本方針③ 動物園エリア



- ・気軽に**飼育員さん、園長さんに会える**環境
- ・**動物のリハビリ**を知り、関われる
- ・都市の中で、**様々な動物と会える**
- ・いつでも、何度でも、ゆっくり、じっくり**いのちと向き合える**

#### 基本方針② 公園エリア



- ・世代の異なる**人々との関わり**
- ・**健康づくりや生きがい創出**
- ・伝統や文化など**人の営みを実感**
- ・**歴史と平和の大切さ**を伝える



## 再整備の基本的な考え方

3つの基本方針に基づき、五感を使った「いのちを感じる」プログラムを展開しやすい環境をつくります。

### 基本方針① 緑と人が出会う

土地の記憶を活かし自然と人の営みを体感できる

#### 里山樹林エリア

いのちを育む加瀬山の緑に親しむ



協働による樹林管理活動



発生材を活用した解説板

#### 整備イメージ

- 市民協働による樹林地管理の活動を支える施設や休憩場所を設置
- 日常的な散歩・散策で自然の芽吹きやいのちの循環を感じ、生きものと出会える安全管理や地域の憩いの空間づくり
- 活動で発生した自然資源を活用し、樹林に息づく生きものや取組を紹介できる解説板

#### ■「いのちを感じる」プログラムの例



みる きく かぐ 味 ふれる  
樹林ボランティア(夢見)

#### 加瀬山の自然を五感で感じる

自然の心地良さを五感で感じ、自然の大切さ、保全の重要性を学ぶ

#### 加瀬山のいのちの歩みとは？

今いる生きもの、昔いた生きものなどを知り、歴史と自然にふれる



みる きく ふれる  
昆虫教室(広島緑化センター)

### 基本方針② 人と人が出会う

他者との交流から自分を知り、協調・協働するすべを考えられる

#### 公園エリア

いのちを大切にする行動につながる



パークセンターの地域活用



子ども達が集う遊具

#### 整備イメージ

- 来園者や動物が公園内を安全に散歩できる園路、夏の暑熱環境に対応した休憩所などの施設整備
- 顔となる遊具などを中心として自然と人が集まつくる柔軟な遊びの空間
- 市民や企業からの意見や寄付を反映した施設整備
- 広場やパークセンターは夢見の取組の発信や地域との関わりづくりなどに活用が可能な空間とする

#### 動物の得意！を披露

見て・聴いて驚き、感動する

- 人と関りが深いロバが人と一緒に歩く様子を観察
- 鳥の羽や羽ばたきを観察
- 動物を観察し、動きや習性に驚き、学ぶ

#### みる きく



みる きく  
ロバの散歩 (京都市動物園)

#### みる きく



みる きく  
バードショー (松江フォーゲルパーク)

### 基本方針③ 生きものと人が出会う

生きものとの関わりを通して、いのちの尊さや喜び、他者への思いやりを学ぶ

#### 動物園エリア

いのちの鼓動に心が動く



いのちを伝えるサインの工夫



いのちを守る取組を身近に感じる施設

#### 整備イメージ

- 触るだけではない「ふれあい」を提供する、アニマルウェルフェアを遵守した動物展示、動物や生息環境の情報発信の充実
- バックヤードの整備や暑熱対策など、働く環境の充実
- ゆっくり観察ができる、居心地よく利便性のある空間づくり
- 調理場やリハビリ施設の一部を見学できる、いのちを守る取組を身近に感じる施設を設置

#### 食べることは生きること！

エサの準備のお手伝い

- 食べ物やうんちの違いかいのちを感じる



みる  
食べることは生きること！  
エサづくり体験 (市川市動植物園)

#### みる かぐ 味

- 野生保護鳥獣の観察
- 職場見学
- 自分でできることを考える



みる  
保護鳥獣の観察 (猛禽類医学研究所)



## 全体の空間構成と施設配置計画

現状の空間構成を活かすことで、樹林など環境への負担や造成など整備の負担を軽減します。

里山樹林  
エリア

## 緑と人が出会う

樹林や地域の生きものを観察・実感できる

- 【再整備を検討する主な施設】
- Ⓐ 樹林管理の拠点
  - Ⓑ 階段・散策路
  - Ⓑ 児童公園
  - Ⓒ 駐車場



里山体験教室のイメージ

公園  
エリア

## 人と人が出会う

家族と、友人と、地域の人と交流する

- 【再整備を検討する主な施設】
- Ⓓ 「う回路」入口・パークセンター南側
  - Ⓔ 駐車場からの入口
  - Ⓕ 展望広場
  - Ⓖ エントランスのロータリー
  - Ⓗ 慰霊塔付近
  - Ⓘ 芝生広場
  - Ⓛ 慰霊塔前広場



遊具配置のイメージ

動物園  
エリア

## 生きものと人が出会う

動物園の動物たちと出会い・学び・楽しみ・驚く

【再整備を検討する主な施設】

- Ⓚ 広場、動物展示、動物病院、調理場、隔離室など



動物病院イメージ



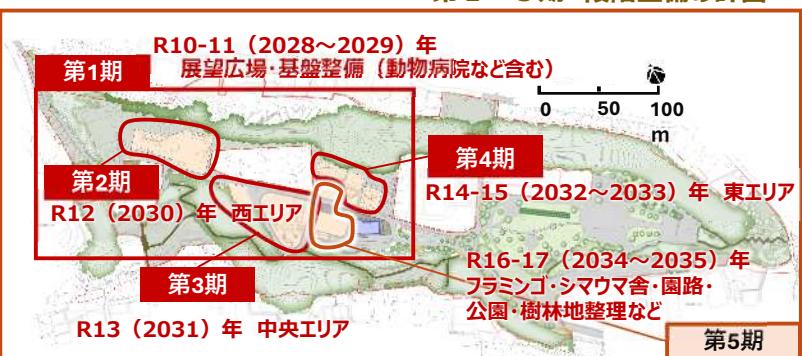
動物舎イメージ

④交流の  
拠点

ワクワク感を演出するサイン、公園エリアから動物園エリアへの誘導サインや案内板

動物モチーフのサイン  
(のんほいぱーく)エントランスの演出  
(盛岡市動物公園)

## ■第1～5期 段階整備の計画



## 植栽

- ・既存の緑陰を活かしながら剪定を実施
- ・施設や公園利用の支障となる樹木を適切な位置に更新
- ・樹林管理活動で出た発生材の有効活用の検討

## 動線

- ・通過、散策と“たまり場”的バランスに配慮
- ・安全に楽しみながら歩ける舗装の整備
- ・災害時などにおける緊急車両、避難経路などに配慮した舗装、サイン整備

## 公園全体

- ・園内に散在する歴史的資源や加瀬山の自然の保全
- ・各所に動物・昆虫などのイラスト、樹林管理の発生材を活用した作品などを設置

発生材アート作品  
(吉野ヶ里遺跡)

遊びやイベントなどの利便性向上のための園路や休憩施設

キッチンカーの出店  
(夢見)芝生広場  
(夢見)

## 地域への波及イメージ

再整備で強化する「いのちを感じる」しきが、夢見から地域を巡り、多様な主体とそれぞれの資源・得意分野で育ち、良い効果が波及していくことを目指します。再整備にあたっては、協賛や技術提供、実験的な取組を通じて、地域とのつながりを深め、広げながら市民・企業・大学と共に新しい夢見を育てていきます。また、環境や社会貢献のメッセージを発信する場として機能し、都市が自然と共生する姿勢を示す場として地域や来園者に新しい価値を提供します。



### 地域とのつながり例



慶應義塾大学大学院  
ワークショップ (夢見)

### ※赤枠：既に夢見で取組が始まっています。



近隣企業による地域  
貢献活動 (夢見)



東京農業大学による  
保護鳥獣研究 (夢見)



川崎総合科学高校による  
展示の協力 (夢見)



加瀬山の会の門松作成  
(夢見)

### 動物公園内の循環の例



園内の樹木の葉で  
巣作り (夢見)



果樹の栽培  
(渋川動物公園)



来園者からの  
ドングリの寄付  
(大宮公園小動物園)



# コレクションプランの考え方

現飼育個体については継続して飼育していくこととし、飼育環境の充実や、五感を活用した体験プログラムなどを可能とするため、飼育動物の繁殖・調整を進め、**将来的に計34種（+a）を継続して飼育する方針**とします（現飼育個体の令和17（2035）年度における自然減想定は約46種）。また、動物園としての魅力向上や来園者ニーズへの対応、公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「JAZA」）コレクションプラン掲載種など、国内の園館で種の保存や飼育展示が求められる種は、今後も**新たな種の導入を継続的に検討**していきます。

飼育継続	考え方		動物園としての役割・取組内容など		動物種の例	
	絶滅の恐れや生息地が減少している動物種の生息域外保全として、他の動物園と協力した保存計画の推進などにより種の保存・生物多様性の実現に貢献する種	近くで観察し、学習し、動物の生態等への理解を深めることにより環境教育へ寄与する種	種の保存・野生生物保全調査・研究	種の保存への貢献その他のこれまでの実績などを勘案し、積極的に個体の導入・繁殖に取り組み飼育を継続する	川崎市環境教育・学習アクションプログラムなどへの貢献 生物多様性かわさき戦略などへの貢献	シセンレッサー・パンダ 幅広い世代に人気のある動物環境教育等にも有効 EN JSMP
新規導入	人気種等市民ニーズの高い種	教育・環境教育レクリエーション	状況に応じて個体の導入・繁殖を検討しながら飼育を継続する	【34種】	フンボルトペンギン ペアでの子育て・群れでの行動等教育的効果 VU JSMP	
現飼育個体をもつて	魅力増進に対応する種	情報教育、環境教育など	【+0】	ホンドタヌキ 里山環境・野生動物との間わり方の学習 VU JSB		
	繁殖や新規導入が困難な種 他の希少種などとの飼育スペースなどの調整のため繁殖を行わない種	—	種の保存や個体の状況などを勘案し、他の飼育継続する種の飼育スペース確保のため繁殖させず終生飼養する 国内で繁殖ができます、国内の他園からの導入も困難な種（血統が近い個体しかいない・個体数が少ないなど）は現個体の終生飼養後に飼育を終了する 飼育終了までアニマルウェルフェアに配慮し、健全な飼育・展示環境の維持向上に努める 外来種、特定外来生物等は飼育種としての定着を想定しない	アカオヒメシャクケ 国内で飼育されているものの全てオスであり、メスの導入ができない クモザル 現個体は（血縁不明のため）繁殖・搬出不可であり戯闘スペース等の問題から調整とする		

※コレクションプランは、社会情勢や飼育個体の保全状況などを踏まえ必要に応じて柔軟に見直します

概算事業費

計画期間の概算事業費は、次のとおりです

## ■全体概算事業費

項目	適用	金額 (億円)
獣舎	レッサーパンダ舎・ペンギン舎・サル舎・インコ舎・小動物舎等	28.2
バックヤード	動物病院・動物隔離施設・調理室等	6.9
広場と遊具	遊具・休憩施設・芝生・小公園等	3.0
利便施設	トイレ	0.5
全体	園路・給排水・電気・埋蔵文化財調査・撤去費等	14.6
総額（消費税込み）		53.2 億円

※物価水準の変動などにより変更が生じる場合があります

事業手法・運営手法

- ・飼育動物を移動させながら行う段階的整備が必要となり一括発注の効果が限定的となること、動物舎等の特殊性から民間活用によるコスト・工期の削減も期待できないことから、市内事業者の参画が見込まれ、地域経済活性化にも寄与できる設計・施工分離発注方式により整備を実施します。
- ・運営については分野ごとにヒアリングや検討を行い、運営手法の考え方を整理した結果、飼育業務は行政が主導的に実施し、各種プログラムの実施、駐車場などは民間パートナーとの協働により充実していきます。

#### ■民間事業者との連携範囲



※國際自然保護連盟 (IUCN)

### レッド・リスト分類（絶滅の危険性）

EN = 危機

VU = 危急

※JAZAコレクションプラン指定種

J SMP = 管理種

JSB = 登錄種

## コレクションプラン

コレクションプランの考え方により夢見て**飼育管理する種を①推進種②維持種③調整種④対象外**の4つのカテゴリーに分類します。このコレクションプランに加えて、夢見の魅力増進に対応するための新たな種の導入については継続的に検討します。夢見の「いのちをまもる」取組の一つに、野生傷病鳥獣の保護活動があります。地域に住む野生動物を知り、人と野生動物との関り方を改めて来園者に考えていただくために、飼育の継続が必要であると判断し、再整備計画骨子からの更新として、野生保護種であるホンドタヌキ、オオタカなどの一部を「対象外」から「推進種」「維持種」に変更しました。（コレクションプランは本編巻末参照）

スケジュール

再整備計画を**令和8（2026）年5月に策定**し、整備に向けた基本設計などを進め、**令和10（2028）年度から飼育動物を移動させながら、段階的に改修整備**を進めます。

